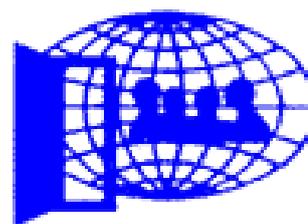




Servas Japan Tohoku

支部ニュース

No.76



2011年3月11日午後2時46分頃、三陸沖を震源に国内観測史上最大となるM9.0の地震が発生しました。この地震で、建造物の倒壊などの直接的な被害の他、津波、火災、そして、福島原子力発電所事故に伴う放射性物質漏れが発生し、東北地方を中心に甚大な被害をもたらしました。現在でも避難所生活を続けられている方々、ライフラインが復旧せず生活に困難を強いられている方々、毎日不安な日々を送っていらっしゃる方々が多数いらっしゃいます。一方、そんな被災に負けず、復興に向けてひたむきに頑張る人々の姿は、被災者の人々の心の支えであり、私たちにとって大きなパワーの源となっています。

地震発生後、東北地方ではしばらく外部との通信が不通となりましたが、復旧が進むに連れ、サーバス東北のグループメール上でも多くのやりとりがされるようになりました。海外からのコメント、原発に対する考え方、被災地への援助のあり方など、災害における心の揺れ、信念などの皆さんの様々な思いがうかがえました。どうか1日でも早く元の生活に戻れるよう、願ってやみません。

支部総会報告.....	1
T 前支部長退任の挨拶.....	2
T 新支部長就任の挨拶.....	3
T. N. さんピースセクレタリー就任の挨拶.....	3
旅行報告.....	4
M. S. 事務局長(M県S市).....	4
O. M. (M県S市).....	5
編集後記.....	6

支部総会報告

毎年4月に開催されている支部総会も、震災のために延期になっていましたが、去る6月11日(土)、無事に開催され、東北支部会員の皆様の元気な姿にお目にかかることができました。震災後にもかかわらず、以下の12人の方々にご参加いただきました。

● 参加 (敬称略)

M県	M. S. (東北支部事務局長)	A. N. (東北支部会計)
	K. T. (東北支部会計監査)	T. N. (日本サーバスピースセクレタリー)
	A. N. ・M	K. F. O. M.
F県	N. T. H. M.	
Y県	T. Y. ・K	

● プログラム

1. 新会員紹介

新会員のA. N. さん・Mさん, K. F. さんにご紹介をいただきました。

2. 支部役員紹介及び支部長交代について

この度, T. S. 旧支部長からT. N. 新支部長へ, 支部長交代となりました。

3. 平成 22 年度会計報告

会計のA. N. さんと会計監査のK. T. さんより昨年度の会計報告をいただきました。

4. 東日本大震災の義援金・支援金会計報告

サーバス会員の皆様から寄せられた義援金・支援金の配分報告, 及び残金の配分を検討し,

5. 被災地からの報告

Y県のTさん, F市のNさん, そして, 現在も支援活動に汗を流していらっしゃるTさんと, Tさんのもとでボランティア活動をされているKさんに被災地の様子, 支援の様子などをお話いただきました。

6. 国内会議報告

この度, 日本サーバスのピースセクレタリーに選任されたTさんより, 国内会議に参加された際の様子をご報告いただきました。

7. JTW(Japanese Traveler Welcome)について

毎年発行されているホストリストの自己紹介欄に”JTW”と記載することで, 国内のトラベラーを受け入れやすくなります。このことについてM事務局長からお話がありました。

8. Facebook の紹介

Hさんから今話題の Facebook の利用価値についてご紹介いただきました。数年後, グループメールのサービスを廃止することが怪訝されていますが, それに取って代わるサービスとして期待することができるかもしれません。

9. その他

T前支部長退任の挨拶

支部長を終えて

T. S.

このたび 38 年間勤めた東北支部長をTさんにバトンタッチすることになりました。以前にも書いたことがあるのですが, 私が支部長になったのはメキシコ人のT. R. トさんが東北大学での留学を終えた 1973 年からだったと記憶しています。その当時東北地区にはほとんど会員がいなく, こじんまりとした支部でした。それでも私が支部長になってからはS市の自宅でT. E. さん(現Y市在住)や他の方々とサーバスについて会合をもったことが何度かありました。当時支部長の仕事の一つにトラベラーの旅行日程に合わせて会員とコンタクトを取り, 会員から了承を得て, それをトラベラーに知らせるという厄介な仕事がありました。あるときF市の会員でない方にトラベラーの受け入れをお願いしました。たまたま会員の都合が悪く, トラベラーを受け入れられないので会員の友人をお願いしたのでした。ところがトラベラーが来ることになっている日に当のトラベラーが来なかったのです。受け入れ予定の方から電話があり, 頼んだ私も全く謝罪の言葉に詰まりました。

今は毎年数回支部ニュースが出ていますが, 当時はワープロが出る前で手書きでニュースを作るというのは大変な作業で, 手書きの支部ニュースは一回きりでした。今回日本サーバス 50 周年記念誌記事を選ぶために過去の支部ニュースをすべて見ました。そこには今は会員ではない多くの会員達のレポートが見られ, 2, 30 年前をなつかしく思い出しました。今回私はすべての支部ニュースの記事分けを行い, 現在Tさん(S市)がその記事のデータ化に尽力されています。データ化が終わりましたら, 各会員に是非CDでお送りしたいと思います。

私が支部長になった当初は支部総会は開いていませんでした。MさんがS市に来て, 事務局を担当されてから毎年支部総会を持つようになったと記憶しています。毎回様々なゲストが参加され, 楽しい会となりました。私も毎回車で新潟から片道 4 時間半位かけて参加していました。もっともY市の県庁前でT. E. さんと奥さんと会い, Tさんの車でY市からS市まで行ったのですが, ドライブの疲れも会場で皆さんと会うことで吹っ飛びまし

た。その頃は全国組織もゆるやかなものでした。たまに東京のAさん(初代日本サーバス会長)宅で各支部長が集まり、ささやかな総会を開きました。実にアットホームな雰囲気なサーバスでした。

私がサーバスに入ったのは27歳にヨーロッパ旅行したときでした。それ以来38年が過ぎようとしています。この間多くの方と会う機会がありました。私がサーバス会員になる前からの会員にはT. E.さんとN. T.さん(F市)がいます。今では私は東北支部では3番目に古い会員ということになります。会員として多くのトラベラーを受け入れ、意気投合することもありました。何よりも生身の外国人とじかに接する時間を持てたことは会員としては最大の喜びです。支部長としてはなにも目立ったことをすることはなかったのですが、皆さんの暖かいご協力があってこれまでなんとか支部長を務めさせて頂きました。感謝の一言です。私事ですが、私はこの3月に大学を定年退職しました。と同時に母が亡くなり、私の人生に一区切りがつかしました。この人生の一区切りの時に支部長もやめるべきではないかとずっと考えていました。今回わがままを言って支部長を退くことになりましたが、まだ会員は続けていきます。今後ともよろしくお願いします。

T新支部長就任の挨拶

つながりを大切に磨きあいましょう！

T. N.
2011.06.15

皆さんはじめましてN県Y村の武石です。昨年12月にS市のKさまとスペイン旅行にご一緒してから、この会に寄せていただくことになりました。どうかよろしくお願いします。私はつながりを得たらできるだけ大切に『出会い、ふれあい、磨きあい』をしていきたいと思っています。

私はJICAのシニア海外ボランティアに2年間ドミニカ共和国に行き、ISO9001の支援をしてきました。その際に夫婦で早期退職しましたので、ようやく年金をもらいながら、経営改善・社員教育・ISO・キャリアコンサルティングなどで細々と社会交流しています。ドミニカ共和国で貧しい子ども達をたくさん見てきて、第二の人生に子育て支援をしたいと思い、N県の養育里親研修を受け、ようやく本年から里親になりました。

我が家には現在、里子で県からお預かりしている小学校4年生の男子が一人います。実子の3人はもう自立していますので、夫婦とその子ひとりです。他には外務省からのインド人青年3名、中国の女子高校生3名、海外留学生特にN大の留学生4名のホームステイを引き受けたりしています。

この3月には、東日本大震災のトリプルの事故から我が家では本会員のTさまのご親族12名を受け入れ交流することができました。子どもの就学や仕事の関係で、ひとまず1ヶ月弱の滞在でそれぞれ自宅のお近くの避難所や住居に退去されました。お別れ会で『春の小川』や『ふるさと』と一緒に歌ったのが昨日のように思い出されます。まだ私の中では震災は終わっていないのです。

6月下旬から一関のNPO法人の事務所で震災生業再開支援スタッフとして赴任して来ました。どうかこちらにお越しの際はお立ち寄りください。

M県特にS市は自分のなかでは日本での第二のふるさとです。これまでその他の都市には旅行以外特にお伺いしていませんが、学生時代のご恩返しも兼ねてという気持ちです。重ねてよろしく願い申し上げます。

T. N. さんピースセクレタリー就任の挨拶

御挨拶

私は1991年に入会し、以来トラベラーと楽しい日々を過ごすことができサーバスの会員であることを大変喜んでおります。また、「東日本大震災」の発生からボランティアとして支援活動に取り組み、全国の皆様から激励の言葉やご支援を頂きあらためてサーバスの暖かさに触れることができ嬉しく思っております。

国内会議におきましては、これまでのご支援に対する御礼と、これからも多くの方々と共に活動を続けたいと願う気持ちからPeace Secretaryをお引き受けすることとしました。

災害支援活動に加えて、私のサーバスへの思いである「海外に興味を持つ青少年や日本に住んでいる外国

の方々に対するPR活動」を含め、サーバスインターナショナルの趣旨に沿った活動を積極的に行い、国際交流の一助となるよう実践していきたいと考えております。

皆様と同じ時にこの世に存在することに大きな喜びを感じ、皆様と共に考え、行動したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

2011年7月

Servas Japan Peace Secretary T. N.
(日本サーバス 東北支部)

旅行報告

M. S. 事務局長(宮城県仙台市)

我ら地球家族…ゴールドコーストにて

2011-7-1

今年の4月、孫たちがオーストラリアからS市の我が家に1ヶ月間の滞在を予定していたのですが、急遽日本行きを中止することになりました。3月11日の震災後、オーストラリアに住む日本人たちは「帰る故郷はもうない!」と思い詰めるほど動揺したことが後で分かるのです。Fの原発事故に関して、オーストラリアのマスコミが日本が発表する数字よりも厳しいデーターを連日表示していたのですから。

それならばこちらから出掛けて行こうと決め、私は慌ただしく出発しました。6/24-30日と短い滞在でしたが、3歳の女の子の通う幼稚園と6歳の



男の子の通う小学校の参観を十分に楽しむことができました。

日本の国土の20倍の大きな国オーストラリアは、住む場所により多様な変化の富んだ大陸です。娘家族が3年前から住んでいる Willson Creek はゴールドコースト空港から車で1時間のところにあり、樹木の生い茂る静かな小さな村です。その村の真ん中にある学校は平屋のこぢんまりした建物でした。1年生から6年生まで全校生徒100名弱ですから、私は大好きでよく見ていたアメリカ映画「大草原の小さな家」に出てくる学校を思い出していました。西



洋の習慣ですから子供たちは内も外も同じ靴を履くのですが、のんびりした雰囲気裸足の子どもの姿も多く見ました。日本だったら校則で禁止されるのではないのでしょうか。日本とオーストラリアの、学校生活の違いの面白さにたくさん気づいたのですが今回は「お弁当」に絞って書いてみます。

「お弁当に生の人参」

学校には小さいですが台所があります。しかし給食の用意のできる設備まではなかなか実現できないようです。日本と違って、ランドセルのない子供たちは自分のお気に入りのリュックにお弁当を入れて朝9時まで登校して来ます。

広い庭に恵まれ、野菜を自宅で栽培している家庭が多いことも理由の一つかもしれませんが「生の人参」を



お弁当箱に入れてくる子がかなりの数いたのです。生の人参をそのまま切らず、お塩も、ドレッシングもかけず、ただそのまま、大きな人参をぼりぼりとおいしそうに食べている男の子たち、女の子たち。千切り、小口切り、笹がき、角切りなどなど、食材を美味しく食べるためのきめ細かさが求められる日本の食文化に育った私には「生の人参を食べる」お弁当に新しい強烈な発見をしてきました。

帰国の日の迫る6月28日、楽しい劇や音楽発表を見ることができた「学校祭」は孫の成長を見ることができ、短い滞在ながら深く印象に残りました。

O. M. さん(M県S市)

4月30日～5月4日 T在住VP,W一家(オランダ)訪問

昨年の7月にオランダの4人家族を受け入れてから、機会がある度に幾度となく「我が家へ遊びに来い」と誘われていた。冬休みに行く予定にしていたのだが、義母が急に入院した為行けなくなってしまった。また、春休みに行くつもりでいたのが、今度は震災でキャンセルせざるを得なくなってしまった。そして、やっとこのゴールデンウィークに彼らを訪問することができた。新幹線はまだ不通のままだったから、5歳の息子と2人で長距離バスに揺られての旅となった。

彼らはM区の閑静な住宅地に家を借りて住んでいる。オランダ政府がすべて負担してくれているという家賃は、1か月分が我が家のほぼ1年分に相当する。さすがにすばらしい家だ。都心なので、さすがに庭は狭いが、小さな中庭があって3階まで吹き抜けになっている。LDKがある3階部分はバルコニーになっていてその上はルーフバルコニーで、晴れた朝にそこで朝食をとるのは気持ちがよかった。バスルームが4つ、エレベーターまである。我が家は今、新居建築をプラン中なので、参考になるところが多々あった。

滞在中のある日、ディズニーランドへ行こうと言うことになったのだが、出発してまもなく渋滞が始まったので、急遽予定を変更して上野動物園へ向



かった。しかし、ここもパンダを目当てに長蛇の列、パンダを見るのに2時間の待ち時間で、そのせいで入園制限まで出る始末…。パンダを見るつもりもない人も、パンダが円門近くにいるものだから、行列に巻き込まれる。日本のゴールデンウィークは相変わらず凄まじいと改めて実感した。これでは休暇を楽しむ余裕もない。渋滞に巻き込まれて疲れるより、家でゴロゴロする人が多くても仕方がない。しかし、日本人はもっと旅行すべきだ。たくさん旅行して視野を広げるべきだと思う。唯一の長期(?)休暇であるゴールデンウィークに出掛けないで、いつ旅行できるのか？私はゴールデンウィーク地方別分割案に賛成である。日本人は遠くに住む親戚や友人と休暇が合わないという声も聞こえるが、そういう場合は会社が年休をとらせてあげるべきなのだ。現状、年休をとらせてもやらない企業が五万とある。年休をとらないのが当たり前で、とるのがけしからんという風潮が未だにある。今回訪問したオランダ家族の奥さんはオランダ大使館に勤めているが、日

本人にとって年に1度の長期休暇であるゴールデンウィークは、単なる祝日であって、長期休暇は他に夏休みなどに1ヶ月ほどある。しかも、今年のゴールデンウィークは3日ずつの飛び連休であっても日本人にとっては「ゴールデン」ウィークなのだが、オランダ大使館では4月29日から5月8日まで当たり前のように10連休なのだ。

日本人はずっと働き詰めでやってきた。そして、震災があって、状況は更に悪くなった。私は前世何か悪いことをして日本人に生まれてきたのではないかと思うことがある。なぜ、日本人は働き詰めの人生を送らなければならないのだろうか…？

TEではスカイウォーク(人が乗ってベルトコンベアのように移動させてくれる)が動いていた。S市では多くのお父さんたちが毎日片道 6km とか 10km の道のりを歩いて通勤していたというのに…。ゴールデンウィークだから多くのイベントが催されていた。そして、イベント会場では被災地のための募金活動が延々と行われていたが、それ以外のところでは震災を思い起こさせる跡形は微塵も感じられなかった。本当に震災があったのだろうかと一度立ち止まって頭の中を整理して「やはり夢ではない」ことを確認しなければならなかった。

編集後記

支部ニュース No.76, いかがでしたでしょうか。森さんの、お弁当にニンジン 1 本という話、おもしろかったですね。私が 20 年前にオーストラリアにいた時、道を尋ねようとして話し掛けた女性が子供をおんぶしていて、その子がニンジン 1 本預けられてカジカジかじっていたのを思い出しました。投稿してくださった皆さん、ありがとうございました。最近は投稿原稿が増えて、支部ニュースに記載するネタに事欠かきません。嬉しい限りです。また、もし今回の支部ニュースに記載されなかった記事を見つけた場合や、お気づきの点がありましたら、お知らせください。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

O. M.

